

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 5 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

◇高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。
- ・12/4 11:33 頃 作業員が蒸発濃縮装置周辺の堰内に水が溜まっていることを確認(堰内に溜まっている水は約 45m³と推定)したため、11:52 頃 当該装置を停止。
- 12:14 頃 作業員が目視にて当該装置を確認し、漏えいは停止したものと考えている。その後、調査を行ったところ、14:30 頃、コンクリート製の堰にひび割れがあり、そこから堰外の側溝に漏えいした水が漏れ出ていること、また、堰とベースコンクリートの隙間より漏えいした水が滲んでいることを確認(堰外に漏れ出た水付近の表面線量率:ベータ線 110mSv/h、ガンマ線 1.8mSv/h)。
- 15:30 頃 堰とベースコンクリートの隙間および側溝内に土のうを積むことで当該箇所からの漏えい水の流出の停止を確認。また、18:10~22:20 にかけて水中ポンプ等により堰内に溜まっている漏えい水を廃液RO供給タンクに移送。なお、漏えい水については、側溝が発電所構内の一般排水路へ繋がっていることが確認されたことから、淡水化装置(蒸発濃縮装置)付近の一般排水路の水および南放水口(一般排水路の出口)付近の海水を採取し、核種分析を行った結果、南放水口付近の海水分析結果は日々公表している当該箇所の最近の分析結果と同程度もしくは若干高い程度の値であった。現在、堰外への漏えいを止めるための応急措置を検討中。なお、淡水化装置(逆浸透膜型)は継続運転しており、淡水化処理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響はなし。
- 12/5 淡水化装置(蒸発濃縮装置)付近の一般排水路の水および南放水口(一般排水路の出口)付近の海水を採取し、核種分析を行った結果、南放水口付近の海水分析結果は日々公表している当該箇所の最近の分析結果と同程度の値であった。

[貯蔵設備]

- ・6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

◇トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元→移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/30 18:03~ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25~ 12/5 10:31 移送実施
6号機	・6号機タービン建屋→仮設タンク	・12/5 10:00~ 移送実施中

移送先	移送先の水位状況 (12/5 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位:O.P.+ 2,457 mm(水位上昇累計:3,674 mm) 12/4 7:00 から 38 mm 上昇
雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)	水位:O.P.+ 1,471 mm(水位上昇累計:2,197 mm) 12/4 7:00 から 69 mm 下降

◇トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/5 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P.+850mm (12/4 7:00と同じ)	O.P.+3,530mm (12/4 7:00から 37 mm 上昇)	O.P.+4,106mm (12/4 7:00から 30 mm 上昇)
2号機	O.P.+2,906mm (12/4 7:00から 21 mm 下降)	O.P.+2,923mm (12/4 7:00から 18 mm 下降)	O.P.+3,045mm (12/4 7:00から 19 mm 下降)
3号機	O.P.+3,173mm (12/4 7:00から 11 mm 下降)	O.P.+2913mm (12/4 7:00から 13 mm 下降)	O.P.+3,131mm (12/4 7:00から 12 mm 下降)
4号機	—	O.P.+2,947mm (12/4 7:00から 6 mm 下降)	O.P.+2,966mm (12/4 7:00から 9 mm 下降)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第二 1,2号機放水南側約7km	12/4	8:00	ND	ND	0.01

・その他、宮城県沖合6地点(11/28 採取)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)については全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (12/5 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	16.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	21.8 °C
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	18.0 °C
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	26 °C

【2号機】・11/6~ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

【4号機】・11/29~ 使用済燃料プールの塩分除去のため、イオン交換装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注入・原子炉の状況> (12/5 11:00 時点)

号機	注入状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約 4.1 m ³ /h)	44.7°C	45.8°C	117.9 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約 3.1m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 4.3 m ³ /h)	71.4°C	70.9°C	114 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約 2.0 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 6.1 m ³ /h)	60.8°C	67.8°C	101.6 kPaabs

【1号機】・12/5 10:44 原子炉压力容器および原子炉格納容器などのプラントパラメータが安定していることを確認したため、原子炉压力容器への窒素封入量を5m³/hから10m³/hに調整。

【3号機】・12/5 10:25 原子炉压力容器および原子炉格納容器などのプラントパラメータが安定していることを確認したため、原子炉压力容器への窒素封入量を5m³/hから10m³/hに調整。

【4号機】【5号機】【6号機】特に変化なし。

<その他>

- ・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・12/5 10:35~12:05 大型クレーンによる3号機原子炉建屋上部のダストサンプリングを実施。

以上